自 己 評 価 表（令和5年度）

愛媛県立東温高等学校

学 校 番 号　　２６

教育方針	1　学科の特質と生徒の実態に即した特色のある教育を、地域との連携を保ちながら展開する。 2　自ら学び、自ら考える力を育て、一人一人に「確かな学び」を獲得させる教育を実践する。 3　公共の学びや体験活動に努め、広い視野を持って時代を拓く人間性、社会性の育成を図る。	重点目標	生きる力をはぐくみ、共に学び高めあう教育の推進 ―社会に貢献できる人間性豊かな生徒の育成を目指して―

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校全般	学校生活への支援	全ての生徒が楽しく有意義な学校生活を送っていると実感できるよう、あらゆる教育活動で支援に努める。	B	昨年度まで、コロナ禍で制限されていた教育活動のほとんどが、コロナ前の活動に戻り、学校の教育活動の支援のもと、生徒は活気ある充実した学校生活を送れた。	様々な困難を抱えて学校生活を送っている生徒が毎年多数在籍している。教職員間で共通理解を図り、生徒一人一人に応じた支援体制を更に充実させていく。
	教育課程の編成	生徒の多様な進路希望に応じた教育課程について検討を重ねるとともに、新学習指導要領の趣旨をふまえた、より効果的な教育課程の編成に努める。	A	1，2年生においては新教育課程を生徒の実態に合ったものにしていくための検討や改善を重ね定着させることができてきた。3年生においても多様な進路希望に対応した編成をすることができている。	全ての学年において新教育課程となる。これまでの実践をふまえて、改善すべき点を明確にし、より生徒の実態に即した教育課程となるよう、検討を重ねていく。
学習指導	教科指導の充実	授業を重視した学習習慣を確立させるとともに、全ての生徒にとって、「わかる授業」を推進し、生徒の授業満足度100%を目指す。（A:95%以上　B:90～94%　C:85～89%　D:80～84%　E:79%以下）	B	生徒による学校評価アンケートの学習指導に関する5項目の平均は、A評価に届かなかったが、全てにおいて前年度を上回っている。生徒による授業に対する評価項目では、前年度よりプラスとなった評価が90%を超えており、徐々に成果は表れている。	授業を重視し、「わかる授業」を推進していくとともに、学習成果を実感できるような評価の在り方を工夫し、生徒の自己肯定感を高められるような工夫を行う。
		家庭学習時間の確保や授業改善を目的としてICT活用を推進し、オンライン学習ツール活用率100%を目指し、授業と家庭学習の連携と充実化を図る。（A:99%以上　B:97～98%　C:95～96%　D:93～94%　E:92%以下）	B	オンライン学習ツールを活用した家庭学習課題により、家庭学習の充実を図ることができた。また、一人一台端末を活用することで、よりわかりやすい授業を行うことができた。	オンライン学習ツールの使用頻度に学年や教科によるばらつきがある。より効果的な活用の仕方について検討し、更に活用を進めていく。
進路指導	進学指導の充実	基礎学力を定着させるとともに、各類型・コースの特性を生かし、自己の在り方や生き方を考えた高い目標を設定させ、自己実現に向けて粘り強く挑戦させる。	B	大学入学共通テストを受験した人文・理数類型の61名（98%）の生徒に対し、学力のさらなる高みを目指すよう支援した。その他の類型・商業科では、12月末時点で、進学希望者の94%が進学先を決定している。	低学年における進路指導をより充実させ、早い段階から生徒に高い目標を持たせ、自律した進路選択がなされるように、担任・学年団と連携し、各類型・コースに合った質の高い指導を行っていく。
	就職指導の充実	就職に必要な学力や人間性を養わせ、インターンシップや企業見学などへの積極的な参加を通して正しい職業観を身に付けさせるとともに、地域や社会に貢献できる人材を育成する。	A	企業見学を奨励し、早い段階から履歴書の作成や面接指導に関する充実した支援を行った結果、9月末で内定率が93%となった。12月末時点では学校推薦による内定率は97%となっている。	確かな職業観を持たせ、望ましい生活習慣の育成と学力の向上につなげる。また、生徒への情報提供を迅速に行い、主体的・積極的な就職活動をサポートする。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	心のこもった挨拶の励行、端正な身だしなみの徹底、SNS利用時のモラルの遵守、交通安全教育の推進について、継続的に粘り強く指導し事故0を目指す。（A:0件　B:1件　C:2～4件　D:5～7件　E:8件以上）	D	心のこもった挨拶の励行、端正な身だしなみの徹底においてはしっかりできていた。交通安全については、交通事故0という高い目標を立てたが、登下校中の自転車での事故が4件発生した。	見通しの悪い交差点での一時停止と安全確認の徹底を図るため、登下校指導の場所について再検討していく。また、身だしなみ・挨拶についても日常の声掛けを大切にしていきたい。
	生徒理解への取組	定期的に個人面談を実施し、生徒理解に努め、学年等での共通理解を図る。また、欠席が気になる生徒にはその都度、臨時家庭訪問を実施し、家庭との連絡を密にする。	B	面談だけではなく、学校生活において気になる様子が見られる生徒に関しては、担任が臨時に家庭訪問を行い、保護者との情報交換・共有に努めることができた。	引き続き、教員間、学校と家庭の情報共有を密にしていきたい。

特別活動	学校行事の充実	ウイズコロナでの実施方法をさらに工夫し、具現化していく。また、生徒会執行部を軸とし、生徒自らが企画・運営ができるよう支援し、生徒が主体的に参画できる学校行事の方法を確立していく。	A	きめ細かな支援のもと、生徒会執行部が自発的に活動できるようになってきている。このため、生徒自らが企画・運営し、主体的に参画する場面が増えてきた。学校行事等の評価アンケート結果からも、生徒・保護者から高評価を得ている。	教員と生徒の連携をさらに密にし、生徒が主体的に企画・参画ができるようサポートしていく。また、行うべき感染症対策を踏まえた学校行事について工夫したい。
	部活動の充実	ウイズコロナで最大限に実施可能な在り方を工夫していく。生徒自らが主体的に活動できる機会を増やすとともに、高い目標を目指し人格の形成を目指していく。	A	コロナ禍が明け、各大会にも出場できるようになり、目標を持って部活動が行われるよう支援を行った。限られた時間の中で各部が練習内容を工夫し、概ね活発に活動できている。	部員不足の部活動も増えてきており、校外へのアピール活動を行うなど対策を講じたい。生徒のニーズに応え、やりがいを感じられるような部活動の運営を目指す。

人権教育	人権・同和教育の充実	人権・同和教育を推進して人権尊重の心を育み、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決を図っていくための実践力も養わせ、いじめ0を目指す。（A：0件 B：1件　C：2件　D：3件　E：4件以上）	B	人権・同和教育ホームルーム活動をはじめとして、「人権を考える日」「人権だより」の実施や、人権標語・ポスターの作成を通じて、人権意識が向上し、差別を許さない行動力を育成できた。また、人権委員会の活動を全生徒・保護者に報告し、啓発活動が充実した。いじめが1件起きたが、早期に対応し、現在解消できている。	いじめを防止するため、よりよい仲間づくりを人権・同和教育ホームルーム活動やその他の活動の中で実施し、いじめや差別を許さない行動力をさらに高めていきたい。
道徳教育	道徳教育の充実	自律した個人として、また、社会の形成者として、必要な道徳的価値観を身に付け、有意義な人生を送れるように生徒の育成を図っていく。	C	昨年に引き続き、社会のルールやマナーを守ろうとする生徒の意識の向上に努めた。しかし、規範意識や言葉の選び方などのコミュニケーション能力をもう少し高めていく必要がある場面も見受けられた。	生徒の道徳観念をさらに涵養するとともに、相手のことを考慮した言動が十分できるように、人道的な行動力の育成を目指したい。
安全教育	安全教育の充実	安全に関する意識や知識を高め、災害・事件・事故に遭った際に適切に対応する能力を身に付けさせるとともに、学校や地域社会に貢献できる実践力を養わせる。	A	消防署員からの講話や避難訓練後の講評で、安全に対する意識を向上させるための取組を行った。また、危険を及ぼす可能性のある特定外来生物の連絡や火災予防週間の案内など、適宜生徒に安全意識を高める啓発を行った。	防災避難訓練において、今年度より完全に生徒に周知なしでの訓練を実施した。今後、実際の災害時に役立つように、さらに改善を行いたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	校務支援システムによる情報共有や、プレゼンを用いた研修の実施により、会議や研修に要する時間の短縮に努めた。教育業務支援員の活用により、事務作業の負担感が軽減した。	毎月設けているノー残業デーについて、なるべく部活動を実施しない日とするなど、全員が一斉に実施する雰囲気作りに努め、ワーク・ライフ・バランスの実現のための気運を高めたい。
	職場環境の整備	毎月、衛生委員会を実施して、環境改善と教職員の健康増進に努める。また、健康講座や健康相談を定期的に実施することで、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	A	毎月実施する衛生委員会において、教職員の心身の状況等について情報共有を行うことで、メンタルヘルスの観点からの支援について検討を行うことができた。また、管理医が健康診断を確認して抽出した人と希望者に、管理医による個別健康相談を行った。	校内に設置している休息室等の活用を呼び掛けるなど、今ある資源を有効活用した勤務中のメンタルヘルスへの配慮や、ノー残業デーの活用による定時退勤の意識を高める。

※　評価は５段階　（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。